

開館 40 周年記念



前田青邨展 究極の白、天上の碧

—近代日本画の到達点—



前田青邨《洞窟の頼朝》1929年 重要文化財 大倉集古館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

展覧会名	開館 40 周年記念 前田青邨展 究極の白、天上の碧 ^{あお} —近代日本画の到達点—
会場	岐阜県美術館 展示室 1、2、3（岐阜市宇佐4-1-22）
会期	令和4年9月30日（金）～11月13日（日） 10:00～18:00 ※前期展示:9月30日（金）～10月23日（日）/後期展示:10月25日（火）～11月13日（日） ※休館日:毎週月曜日（祝日の場合は翌平日） ※夜間開館:10月21日（金）は20:00まで開館 ※展示室の入場は閉館の30分前まで
観覧料	一般 1,300（1,200）円 大学生 1,000（900）円 高校生以下無料（ ）内は20名以上の団体料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、難病に関する医療費受給者証の交付を受けている方とその付き添いの方（1名まで）は無料 ※前売りは当日料金から200円引き
主催	岐阜県美術館、岐阜新聞社、岐阜放送、前田青邨展実行委員会
後援	朝日新聞社、NHK岐阜放送局、岐阜県教育委員会
本展覧会は、(公財)田口福寿会、十六フィナンシャルグループの助成を受けています。	
協力	中津川市、日本通運、岐阜県社会保険協会
協賛	岐阜県JAグループ、大垣共立銀行、パロー、岐阜信用金庫、損害保険ジャパン、トーカイ、岐阜プラスチック工業、岐阜商工信用組合、イビデン、太平洋工業、ヤマカグループ、美濃工業
助成	(公財)花王 芸術・科学財団

本資料に関するお問い合わせ

岐阜県美術館 広報担当：橋本 担当学芸員：青山・北泉

〒500-8368 岐阜市宇佐 4-1-22 TEL 058-271-1313 FAX 058-271-1315

美術館 Web サイト：<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp> E-mail：kouhougifukenbi@govt.pref.gifu.jp

開館 40 周年記念

前田青邨展 究極の白、天上の碧

— 近代日本画の到達点 —

本展覧会について

このたび岐阜県美術館では、中津川市出身で大正から昭和の日本美術院で中核を担った日本画家、まえだせいそん前田青邨（1885-1977）の回顧展を開催します。

青邨は16歳でかじたはんこ梶田半古に師事し、写生と古画研究によって実力を身につけました。また、尊敬するおかくらてんしん岡倉天心やしもむらかんざん下村観山からも指導を受けながら、同世代の精鋭と研鑽を積みました。そして、朝鮮半島や中国への旅行、欧州留学によって異文化を体験する中で日本画の将来性の確信を得、以後92歳まで意欲的な制作を続けました。

歴史人物画の名手として知られ、中でも2010年に重要文化財に指定された《洞窟の頼朝》（大倉集古館蔵）が有名ですが、本展ではこの名作が全期間通して展覧されます。さらにルネサンス期の壁画に触発されたモニュメンタルな大作《ローマしせつ羅馬使節》（早稲田大学 會津八一記念博物館蔵）は約40年ぶりの郷土での公開となります。日本画の技法で表された自画像の名品《白頭》（東京藝術大学蔵）、やまと絵に学んだ華麗な色彩が目を惹く《紅白梅》（ひろしま美術館蔵）等の代表作も集結します。依頼に応じて楽しみながら描いた小品も厳選して、初期から晩年まで100点を超える作品群によって、稀有なる日本画の巨匠・前田青邨の全貌をご紹介します。

前田青邨 略年譜

明治 18(1885)年	1月27日、岐阜県恵那郡中津川村(現・中津川市)に生まれる。本名廉造。
明治 34(1901)年	上京し、梶田半古に弟子入りする。兄弟子の小林古徑から手ほどきを受ける。
明治 35(1902)年	第12回日本絵画協会・第7回日本美術院連合絵画共進会に初出品し、3等褒状を受ける。
明治 40(1907)年	紅児会に入会し、今村紫紅・安田靫彦らと歴史画研究に励む。
明治 44(1911)年	松本すゑと結婚。12月、岐阜生まれの横浜の実業家・原三溪から支援を受ける。
明治 45(1912)年	3月、岡倉天心より指導を受ける。《御輿振》が第6回文展で三等賞受賞。
大正 3(1914)年	日本美術院同人となる。
大正 8(1919)年	この頃スランプに陥り、円覚寺の禅師釈宗演に参禅。「画禅入三昧」の軸を与えられる。
大正 11(1922)年	日本美術院記念事業として西洋美術視察のため小林古徑らと渡欧し、日本画の方向性に自信を得る。
昭和 4(1929)年	再興第16回院展に《洞窟の頼朝》(現・重要文化財)出品。
昭和 10(1935)年	岩崎家より献上画の揮毫を委嘱され、《唐獅子》を制作。
昭和 12(1937)年	帝国芸術院会員となる。
昭和 19(1944)年	帝室技芸員に任命される。
昭和 26(1951)年	東京藝術大学美術学部日本画科主任教授に就任する。
昭和 30(1955)年	皇居仮宮殿「饗応の間」壁画《石橋》完成。再興第40回院展に《出を待つ》を出品。文化勲章受章。
昭和 39(1964)年	日光二荒山神社宝物館壁画《山靈感応》完成。
昭和 42(1967)年	法隆寺金堂壁画再現模写事業の総監修に安田靫彦とともに就任。
昭和 47(1972)年	高松塚古墳壁画模写の総監督を委嘱される。
昭和 50(1975)年	前田青邨展(東京国立近代美術館)。
昭和 52(1977)年	逝去。享年92。

初期から晩年まで100点を超える代表作が大集合！

みどころ作品を
ご紹介します!!

どうくつ よりとも 《洞窟の頼朝》

青邨の作品で唯一、重要文化財に指定されている《洞窟の頼朝》(昭和4年作)が全期間を通して展示されます。平成22年に重要文化財に指定後、岐阜県では初めての公開になります。

石橋山の戦いに敗れた源頼朝ら主従7人が山中の洞窟に身を潜める緊迫した一瞬を表現したものです。これまでになく大きな画面構成は、ヨーロッパで視察した各地の美術館で感銘を受けた、大画面構成の歴史画を脳裏に置いていたのだろうと推測されます。また、鎧の金属の光沢感を表すための絵具や膠の濃度の工夫は新しい試みとなっており、青邨が歴史画制作に際して、如何に独自の表現をするかにシフトが切り替わったことが、ここに示されています。



前田青邨《洞窟の頼朝》1929年 重要文化財 大倉集古館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

ローマしせつ 《羅馬使節》

タテ 290cm におよぶ大作《羅馬使節》(昭和2年作)は、岐阜県美術館で昭和58年に青邨展が開催されて以来、40年ぶりの岐阜県での展示となります。

九州のキリシタン大名が派遣した天正遣欧少年使節を題材とし、首席正使の伊東マンショが白馬に跨る姿で描かれています。細部を見ると、青邨には珍しく顔料の混色が各所に見受けられ、線描ではなく色の面で構成されています。また、装飾品の立体感を示すのにハッチングのような筆致を用いるなど、ヨーロッパで実見したフレスコやテンペラ技法による宗教画に触発された要素を日本画に転用しています。



前田青邨《羅馬使節》1927年
早稲田大学 會津八一記念博物館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

で ま 《出を待つ》

岐阜県美術館が所蔵する《出を待つ》(昭和30年作)は、皇居の「石橋の間」を飾る壁画《石橋》と同じ能楽師を描いており、代表作の一つです。《石橋》は、能「石橋」を題材に、赤獅子の舞う姿を描いたものですが、その際、モデルを依頼した十四世喜多六平太の出を待つ構えを見て、新たに本作品を構想しました。躍動的な《石橋》と対照的に《出を待つ》は白い獅子頭であり、能装束も色数を抑えて渋く、能の「幽玄」を意識させています。

一般的に能画といえば能楽師が能舞台で物語を演じている場面を描くのに対し、本作品では舞台上上がる前の能楽師の緊張感のある姿をとらえており、異色の能画です。



前田青邨《出を待つ》1955年 岐阜県美術館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

う 《鶉》

《鶉》(昭和15年作)は、昭和8年に鶉飼を取材した後に、時を置いて制作されたものです。同じ方向に視線を向ける群れを画面の右側に寄せ、後方を詰めて配置し、先頭で羽を広げ高く首を上げて鳴く鶉の姿を際立たせています。また、瑞々しい墨色によってつややかな鶉の羽を表しています。



前田青邨《鶉》1940年
株式会社十六銀行蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702



前田青邨《紅白梅》1964年
公益財団法人ひろしま美術館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

こうはくばい 《紅白梅》

《紅白梅》(昭和39年作)は、青邨が花鳥画で最も得意とし、また多くの人から求められた梅を描いたものです。中でも、ローマ日本文化会館のために制作した《紅白梅》が大作として知られていますが、二曲屏風いっぱい紅白の梅の木を表した本作品も、装飾的な表現と日本画の技法をこらした豪華絢爛な一点です。

ねこ 《猫》

《猫》は、たらし込みが用いられた草花模様の黄色いカーペットの上に寝そべる白猫を描いたものです。猫が何かに反応して後ろを振り返る一瞬を捉えています。背景の全面に黄色を施す作品は青邨には珍しく、猫の鼻先や肉球の部分に見える淡い朱色とカーペットの外側に見える朱色がふんわりした画面のアクセントになっています。



前田青邨《猫》1949年
滋賀県立美術館蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

けし 《罌粟》

《罌粟》は、昭和5年の院展出品作品であり、前年の《洞窟の頼朝》とは主題を変えて、初めて本格的に花鳥画に取り組んだ作品です。金屏風の横長の構図を活かし、右隻には緑の葉叢と爛漫と咲く白い花を横一線に並べ、左隻には罌粟坊主となった茎が乱れるように倒れたところへ深紅の花がほんのり顔を見せて、見る者の視線をその一点に強く惹きつけています。



前田青邨《罌粟》1930年 光ミュージアム蔵
© Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

■ 関連プログラム(予定)

◆記念講演会「祖父の画室」

日時：令和4年10月1日（土） 13：30～15：00

会場：岐阜県美術館 講堂

講師：秋山 光文 氏（前田青邨孫、お茶の水女子大学名誉教授、目黒区美術館長）

◆美術講座「青邨芸術の出発点」

日時：令和4年10月22日（土） 13：30～15：00

会場：岐阜県美術館 講堂

担当：北泉 剛史（岐阜県美術館学芸員）

◆美術講座「作画三昧 青邨の人生と芸術」

日時：令和4年11月5日（土） 13：30～15：00

会場：岐阜県美術館 講堂

担当：青山 訓子（岐阜県美術館学芸課長）

◆鑑賞会

日時：令和4年10月 9日（日） 15：00～16：00

令和4年10月21日（金） 18：45～19：30

令和4年10月23日（日） 15：00～16：00

令和4年11月 6日（日） 15：00～16：00

会場：岐阜県美術館 展示室

担当：本展担当学芸員

◆ナンヤローネ アートツアー

日時：令和4年10月2日（日） 14：00～15：30

会場：岐阜県美術館 多目的ホール、展示室

担当：教育普及係

※ 参加方法等詳細は当館 Web サイトにてご確認ください。

■ 同時開催（※会期中、同展観覧券の半券にてご観覧いただけます。）

◆「開館40周年記念 美術館の名品ってナンヤローネ 岐阜県美術館名品尽くし！ 第2部」

令和4年10月4日（火）～12月25日（日）

◆「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.12 大平由香理」

令和4年9月23日（金・祝）～11月6日（日）

※展覧会については、感染症拡大防止対策のため、延期・中止する場合があります。

詳細は岐阜県美術館ウェブサイトにてご確認ください。

(<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>)

岐阜県美術館

検索

開館 40 周年記念

前田青邨展 究極の白、天上の碧^{あお}

—近代日本画の到達点—

広報画像貸出申込書

FAX 送信番号：058-271-1315



貴社名		ご担当者名	
媒体名	(掲載コーナー、特集名：)		
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL：	FAX：	
	E-mail：		

1. ご紹介いただける場合、貴媒体の情報をお知らせください。

掲載/放送	月	日	発売・放送 (月号) / 発行部数	部
掲載内容				

2. 広報画像はご使用になりますか。

 はい 画像データ到着希望日 (月 日) いいえ (写真は使用せず、文字掲載のみ)

3. 別紙の写真をご参照の上、ご希望の【画像番号】にチェック☑してください。

下記キャプションの作品名称、所蔵、クレジットを必ずご記載ください。

☑	番号	ご掲載時のキャプション、クレジット表記
<input type="checkbox"/>	①	前田青邨《洞窟の頼朝》1929年 重要文化財 大倉集古館蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	②	前田青邨《羅馬使節》1927年 早稲田大学 會津八一記念博物館蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	③	前田青邨《出を待つ》1955年 岐阜県美術館蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	④	前田青邨《鶉》1940年 株式会社十六銀行蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	⑤	前田青邨《紅白梅》1964年 公益財団法人ひろしま美術館蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	⑥ ※	前田青邨《猫》1949年 滋賀県立美術館蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702
<input type="checkbox"/>	⑦	前田青邨《罌粟》1930年 光ミュージアム蔵 © Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2022 E4702

※この作品は10月23日
までの展示となります

■広報画像一覧

①



②



③



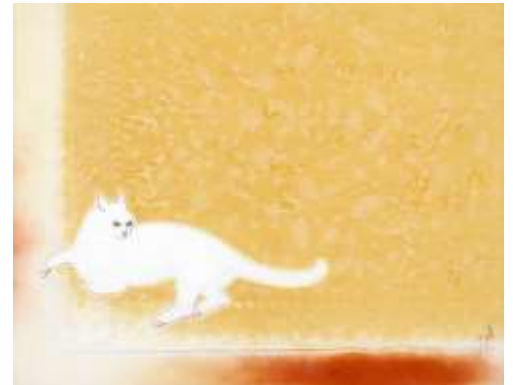
④



⑤



⑥



⑦



【広報画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります。
- 展覧会名、会期、会場名は、必ず掲載してください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなどの画像の加工・変更はできません。
- 転載などの2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードをしてください。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープ・DVD等を、岐阜県美術館へ3部お送りください。
- 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は岐阜県美術館までご連絡ください。